

2年連続フリーターゼロ。進路達成の意欲につなげた

広島県立安西高校

「選択」を徹底させた体験学習を実施

実施概要

地域・NPOと連携、県教委事業を活用し、ボランティア体験 大学体験・企業実習

広島県立安西高校では、総合的な学習の時間を「セルフプランニングの時間」(以下SP)と名付けた体験学習の場としている。1年次から2年次1学期までは、ボランティア体験学習。地域のNPO法人など9団体の協力のもと、生徒たちは計3カ所でボランティアを経験する。事前に9団体の講演会を開き、生徒たちが自ら選択するしくみだ。2年次夏休みには、大学体験か企業実習に取り組む。大学体験は、広島県教育委員会の高大連携事業を活用する。夏休みに開かれる大学講座のシラバスを1年次末に生徒に提示し、講座を自ら選択。企業実習は主に地元企業で希望業種の仕事を体験する。

同校では以前、自分に自信が持てず、学校生活にも将来にも目標もなく、意欲に乏しい生徒が目立っていた。「生徒たちが積極的に自分の人生をとらえられる環境を

「セルフプランニングの時間」実施スケジュール

	ボランティア体験	職場体験・大学体験	進路研究
1年	【1学期】 9団体によるリレー講演、調べ学習、マナー指導など 【2学期】 体験前学習後、ボランティア体験 【3学期】 ボランティア体験	【1学年3学期】 大学体験をする人はシラバスで受講講座を探す	
2年	【1学期】 ボランティア体験 最大3カ所で週1回の割合でボランティアを体験	【夏休み】 企業実習、大学体験に分かれて、それぞれ3日～5日間体験	【2学期】 大学の先生による出張講義
3年			【随時】 それぞれの進路達成に向けての個人指導へ 【随時】 希望者は自主的に大学の公開講座へ参加

作りたい」(教育研究部主任・松本小百合先生)と2002年度から始めたのがSPだった。

POINT

自分自身を見つめるため
消去法でも「選ぶ」体験を設ける

重視しているのは「選択」だ。ボランティア内容、大学体験か企業実習か、その中の講座や業種。どの段階も生徒自らが選ぶ。「消去法でもいい、選択する瞬間が自身を見つめる機会になると考えています」と松本先生。

1年次のボランティア体験では、福祉施設などに限らず、NPO法人なども選択肢に入れている。また、警察や地域の消防団とも連携し、さまざまな形で活躍する社会人と接する機会を設けている。世の中にもいろいろな職業があることを生徒たちが実感できるからだ。

そして、この経験で進路に取り組む基盤を作った上で、2年次の体験学習へ。大学講義を体験する生徒たちは、事前に調べ学習を徹底的に行う。当日は講義内容を細かくワークシート()に記入。事後指導ではボランティア体験同様感想を書く。企業実習も基本的な流れは同じだ。「大学へ行くとまず施設設備の充実ぶりに圧倒され、感動するようです。大学の授業が刺激となって、学習意欲を高める生徒も多いですね」。実際、3年次になって自主的に大学の公開講座へ通い始める生徒もいるそうだ。ここ2年連続で、フリーターはゼロ。全員、進路を決めて卒業する。中でも進学志望者が増えているそうだ。

>> School Data
 生徒数 / 517人 全日制普通科15クラス
 進路状況 2005年度 / 大短専各進学60.0%、就職40.0%
 広島県広島市安佐南区高取南2-52-1
 TEL 082-872-1321
 URL http://www.yasunishi-h.hiroshima-c.ed.jp

文中のワークシートは「キャリアガイダンス.net」(<http://www.career-g.net/>)でダウンロード可能です